

マーブル福祉会のあゆみ

令和2年5月24日

就学前のハンディを持つ子どもたちの保護者が、平成2年に子どもの療育や就学を考える会「睦実会」を発足させました。最初は「印西市にマザーズホームを」の目標をかかげて活動し、たんぽぽ園の前身となる簡易マザーズがスタートしました。しかし、子どもの成長につれ悩みも変わってきました。学校から帰っても過ごす場がなかったのです。当時学童保育室はありましたが、障がいのある子は入れてもらえませんでした。そこで、「ないなら作ろう」と考え、数人の保護者がお金を出し合って放課後を過ごす場を作りました。その実績が認められ、印西市が障がい児放課後対策事業を設立し、マーブル福祉会が指定管理を受け「クリオネクラブ」として現在に至っています。全国初の障がい児学童ということで、全国から見学者が訪れました。

マーブル福祉会は障がいのある人々と共に歩んで15年になります。

重い障害を持ちながらも、生きようとする子ども達の姿に接すると、至らないことの多い自分達も何か『大きな力』に生かされているように思います。そんな素敵な子ども達に感謝の気持ちが沸いてきます。

子どもたちのきらめくような笑顔がひとつでも多くひきだせたらと願い歩みを進めてきました。これからもハンディを持つ障がい児・者が、この社会で当たり前前に生きていける支援ができるよう、マーブル福祉会は前進していきたいと思えます。

特定非営利活動法人
マーブル福祉会
理事長 浅井 剛久